

ありがとう留萌本線



明治43年11月23日の開通以来、町民の足として支え続けたくれたJR留萌本線の石狩沼田～深川間（14.4キロ）が、令和8年3月31日（火）をもって115年の歴史に幕を下ろしました。

ラストランとなったこの日は、全国各地から「最後の雄姿」を一見ようと駆け付けた多くの鉄道ファンが列車に乗りし、石狩沼田駅を訪れました。

石狩沼田駅では、これまで「沼ルシエ」の開催など石狩沼田駅を盛り上げていただいた石狩沼田駅未来協議会（松尾敦史会長）の売店や終着駅特製駅弁、駅そば、留萌本線グッズの販売などが行われ、町民や多くの鉄道ファンがそれぞれ別れを惜しんでいました。

いよいよラストランの時間が近づくと駅周辺には多くの人が集まり、満員状態の3両編成の最終列車は、午後9時34分、定刻より23分遅れで吹ガールズが演奏する中、配布されたペンライトを振り見送る人々の「ありがとう」の感謝と夜空を彩る花火に見送られ出発しました。

115年の歴史に幕。



▲最終運行日に設置されたヘッドマーク

3/14 石狩沼田駅イベント「沼ルシェ」



地元の飲食店などが軒を連ね、炭鉄港めしのカレーラーメンや駅そばなど、鉄道旅の情緒を誘うメニューや各日30食限定の「特製終着駅弁当」が販売されました。

3/7 ありがとう留萌本線 記念証ラリー



留萌本線各駅で違うデザインのカードが配布され、当日限定の到着記念証を求めて多くの鉄道ファンが石狩沼田駅を訪れました。

明治43年の開通以来、幾多の冬を超え、私たちの日常を運び続けてきた留萌本線。石狩沼田駅周辺では、長い歴史の中でもかつてないほどの温かな賑わいに包まれた最後の一か月の様子を掲載いたします。

3/22 春の終着駅 キッチンカー祭り



北海道各地から有名キッチンカーが出店し、来場者は、たこ焼きやクレープなど様々なグルメを堪能していました。

3/21 沼田町春の雪まつり (2日目)



あいにくの悪天候に見舞われましたが「ビアガーデン」が開催され、雪に負けず、温かいもつ鍋や焼き鳥を囲みながら駅前の風景を心に刻んでいました。

3/20 沼田町春の雪まつり (1日目)



夜高太鼓による勇壮な演奏で始まり、子ども達を対象にした「お宝まき」やN-link.によるスポーツレク、豪華景品が当たる「子どもビンゴ大会」が開催されました。

3/29 ありがとう留萌本線 記念講演会 (2日目)



「ありがとう留萌本線～鉄道と町の思い出を鉄道唱歌にのせて～」と題し、街歩き研究家の和田哲さんの講演が行われ、留萌本線や石狩沼田駅の歴史の解説、和田さんと横山町長らによるパネル討論会が行われ、廃線後の石狩沼田駅の活用などについて意見を交わしました。

3/28 ありがとう留萌本線 記念講演会 (1日目)



「イラストで迎える留萌本線」と題し、「るもいせん各駅散歩」の著者である山本留吉さんとイラストレーターやまもととめきちの始発ちゃん(リモートで参加)をお招きし、「るもいせん各駅散歩」を基に留萌本線の各駅解説や実際に訪れた際の思い出などをお話しいただきました。

3/28 さようなら石狩沼田 フェスタ



28日(土)から30日(月)の3日間開催され、町内外から飲食店などが並び、駅そばや鉄道グッズの販売が行われたほか、大道芸も行われました。

留萌本線最終運行日の様子



緑町旧踏切から撮影したキハ54形



朝から多くの鉄道ファンが石狩沼田駅を訪れました



乗車切符を購入するために長蛇の列となりました。



最終日限定でヘッドマークが設置されて運行しました。



最終列車の発車時刻が近づくに石狩沼田駅周辺には多くの人が集まっていました。



最終電車の乗車切符を購入するための列が16時頃から整理されました。



約500人がホームに集まり、ペンライトを振って最終列車を見送り、別れを惜しみました。

運行最終日に石狩沼田駅で行なわれたイベント

- 9時～21時
ありがとう留萌本線フェスタ
- ・到着証明証の配布
 - ・終着駅特製駅弁・駅そば・留萌本線グッズなどの販売
- 11時～
JR北海道主催
「ありがとう留萌本線お別れセレモニー」
- ・横山町長、島田会長（JR北海道）挨拶
 - ・深川駅長へ花束贈呈
 - ・吹ガールズが演奏する中、お見送り
- 21時34分発～（定刻：21時11分）
- ・深川駅長へ花束贈呈
 - ・花火打ち上げ
 - ・吹ガールズが演奏する中、ペンライトを振ってお見送り

ありがとう留萌本線お別れセレモニー

留萌本線運行最終日となった3月31日（火）JR北海道主催の「留萌本線お別れセレモニー」が執り行われました。多くの町民、鉄道ファンが石狩沼田駅に集まる中、横山町長とJR北海道の島田修会長がそれぞれスピーチ（下記に全文記載）をし、留萌本線への想いを涙ながらに話されました。

その後、「吹ガールズ」が演奏する中、ホーム上で高校時代にJR留萌本線を利用して通学していた松尾春花さんまつおはるかから深川駅長へ花束が渡され、出発進行の合図で列車は走り去っていきました。



ありがとう留萌本線お別れセレモニーでの町長スピーチ【全文】

沼田の地にも春の暖かさが感じられる季節となった本日、終着駅で始発駅の石狩沼田駅に多くのご来賓各位のご臨席のもと、JR留萌本線お別れセレモニーが開催されるに当たり、地元を代表し一言お別れの言葉と町民をはじめとする皆様にお詫びのご挨拶をさせていただきます。

開業から113年目の令和5年3月31日、今から3年前の今日、石狩沼田駅から留萌駅間が姿を消して早3年。実に1000日以上の時があっという間に過ぎ、来てほしくなかった今日、令和8年3月31日を迎えてしまいました。この沼田の地に鉄道が敷設されたのは、115年前の1910年。沿線自治体の歴史と共に歩んできた「留萌本線」とも本日でお別れです。

これまでに多くの人々に愛されてきましたが、連ドラブームも過ぎ去り、高校の閉校や新型コロナの発生、人口減少などの影響から利用者数の減少により、時代の流れとは言え、本日をもって全線が廃線となることは、言いようのない淋しさと悔しさが募り、ただ、ただ存続が出来なかったことに沼田町民と全国の応援団の皆様に対しまして心からお詫びを申し上げたいと思います。誠に申し訳ありませんでした。

この沼田町に鉄道が通ったのも沼田町開拓者の沼田喜三郎翁が自身の土地や財産を提供されたことによりこの地に鉄道が敷設されたと聞かされていきましたので、これまでも地域の財産である留萌本線を持続させ、更には今後の鉄道を守るために道内自治体では唯一JR北海道を支援する立場を明確にした上で、町の応援団組織である「JRに乗り続け隊」の皆様のご協力も得ながら様々な活動を展開してきたところです。

この留萌本線は、明治末から1世紀以上にわたって地域の足を支え、石炭やにしん・農産物の物流、そして通学・通院の要でありましたが、北海道各地の路線が「赤字」の二文字で排除され鉄路が消えてしまうことに今でも憤りを感じています。

北海道の広大な大地に鉄道が整備され、ローカル地域の隅々まで鉄路が繋がっていたからこそ、極寒の大地での生活基盤を続けることが出来たもので、道民の生活をはじめ北海道農業を、観光産業を、そして、通学や通院を必要とする方を守るためにも鉄路の存在は今後も絶対に必要です！

どうか、これ以上道民が苦しむことの無いよう関係機関の皆さんがしっかりとスクラムを組んで取り組んでいただけることを願います。また、JR北海道には「お客様に利用してもらいやすい環境をしっかりと構築すること！」を強くお願い申し上げます。

結びに、ここまで留萌本線を支えてくれた「沿線住民や全国の応援団の皆さんに！」、そして、最後の最後まで石狩沼田駅を支えてくれた駅未来協議会 松尾会長さん、阿部・村上両隊員に心から感謝申し上げ、更に、沢山の物語やみんなの希望を運んでくれた「留萌本線に！」、多くの人にドラマを与え続けてくれた「石狩沼田駅に！」対し、「今日で灯りは消えてしまいますが、私たちの心の灯りはこの先も消えることはなく、皆さんの心の駅として記憶の中でいつまでも走り続けてくれること！」と、町民や全国の応援団の力を借りながら「ここから新たな町の駅「石狩沼田駅物語」が始まること！」を宣言し、心から御礼とお詫びを申し上げ、挨拶といたします。

「ありがとう留萌本線！」そして、「これからも共に歩み・共に未来を創ろう石狩沼田駅」

令和8年3月31日 沼田町長 横山 茂

新たな地域交通

「きたそライナー号」運行開始！



▲オープニングセレモニーでのテープカット

料金 片道650円
(沼田観光情報プラザ前から深川駅前・深川市立病院 ※7時半発のみ
深川西高前まで運行)
乗車定数 75名(内座席29名)

空知のバスをもっと便利に、もっと身近に
空知バスナビ

バスの時刻表やルート検索、バス停検索機能で、簡単に空知のバスを利用することができます。

左記QRコードよりアクセスすることができますのでご利用ください。



3月31日(火)をもって廃線となった留萌本線の代替交通として朝夕の時間帯に新設された路線バス「きたそライナー号」の運行が4月1日(水)より開始されました。

新設された沼田深川線は、道北バス(旭川市:松本神一代表取締役会長)に運行を担っていただき、平日・土日の朝夕に各3~4便運行していただきます。

名称は各市町の小・中学生から募集した案を参考に決定し、黄色の車体には深川、秩父別、沼田町のキャラクターが描かれており、親しみやすいバスになっています。

オープニングセレモニーで横山町長は「今日から新たなスタートということで、未長く利用していただき、通学や通院される方の足として定着することを願っています」と挨拶されました。



▲黄色の車体には、3市町のキャラクターが描かれています。